



鬼  
瓦  
家  
守



鬼瓦家守

運営会社

新東株式会社

本社所在地 〒444-1314 愛知県高浜市論地町4丁目7番地2

TEL 0566-53-2631 / FAX 0566-52-2217

[www.onigawara-iemori.jp](http://www.onigawara-iemori.jp)



鬼瓦家守 onigawara iemori



守られて  
暮らす。



1400年以上の歴史がある瓦は日本の建造物を風雨から守り続けている。なかでも鬼瓦は、厄災祓いとして社寺や住宅屋根に飾られ、その形は鬼面だけでなく蓮華文・家紋・動物など様々であり、火事から守る意味を込めて「水」の字を配したのものである。鬼瓦と似た文化として、沖縄のシーサーや狛犬などが挙げられ、これらはまさに日本の住文化の一つと言えよう。「守られて暮らす。」“鬼瓦 家守 onigawara iemori”は、住まいのカタチが今後どのように変化しても、全ての住空間に「守り神」として新しい役割を担う鬼瓦です。



# 鬼師という 伝燈。



鬼瓦は通常の瓦とは違い、家に寄る邪気を祓い、そこに住まう家族を守る役割を持った瓦です。“鬼師”と呼ばれる作り手が魂を分け与えるような気持ちで、丹念に仕上げています。「鬼師の個性が鬼面に宿る」と言われるように、どことなく鬼師に似た雰囲気を持つところも愉しみの一つ。土を自在に操り、幾多のへらを使いこなし、無限の造形を成すその姿は、鬼を作り出す鬼神のごとく。近年では、住宅様式の多様化により、鬼瓦を屋根に飾る機会が減り、鬼瓦文化の継承が危惧されています。“鬼瓦家守 onigawara iemori”はその大切な日本の住文化と伝燈を守るひとつの試みでもあります。

相手本位の精神が  
優しい表情を生んだ。



## 鬼瓦家守

*onigawara iemori*

鬼瓦を屋根に飾る家屋が減少する近年において「室内に飾る鬼瓦」というアイデアに端を発した『鬼瓦家守』。これは日本の住文化と伝統を守ることを目的とした、ひとつの試みです。



「家内安全」を願いながら一刀入魂。指で丁寧に仕上げられた作品は、不思議と優しい表情になっていたという。お客様を想いながら制作することで「子供が怖がらないように」という想いが無意識に働いたのかもしれない。 **品番：A-01**

## 鬼師

*oni-shi*

家屋や家族を守る「魔除け」であり「守り神」。『鬼師』はその鬼瓦を伝統の製法によって生み出すことができる、世界で唯一の職業であり、誇り高い職人の肩書きです。

### 鬼 石川 智昭 師 イシカワ トモアキ

平成8年、株式会社石英に入社。その後、平成19年まで有限会社カネコ鬼瓦工場に修行に入り、株式会社石英に戻る。修善寺、歌舞伎座をはじめ、数々の神社仏閣などの鬼瓦を手掛ける。



## すべての家庭に鬼瓦を

家に寄る邪気を祓い、家族を守る。古くから「魔除け」としての役割がある鬼瓦だが、近年の住宅様式の多様化により、一般家庭から姿を消しつつある。この現状を何とかしなければ……。強い使命感が「iemori」を生み出す原動力になった。瓦を使わない住宅でも「一家に一鬼」。そんな日が訪れることを願い、今日も無心で鬼を彫る。

# からす天狗鬼面

Karasu Tengu Kimen

鬼にはない  
柔和な表情を



# 鬼面

Kimen

迫力の表情と  
燦し瓦の輝き



成りは小さくとも鬼瓦は鬼瓦。寺院に設置される大迫力の鬼瓦と同じ想いで制作に臨み、小さなサイズに忠実に再現することに細心の注意を払ったという。鬼の迫力と、燦し瓦の美しい輝きが際立つ、渾身の逸品。 **品番：B-01**



「からす天狗」をモチーフにした異色作。頭には仏教の世界で象徴的に使用される「蓮の花」が。泥水（悲しみや苦しみ）の中で育ち、美しい大輪を咲かせる蓮は「物事を成功させる」といった意味がある縁起ものだ。 **品番：C-01**

## 鬼 梶川 賢司

師 カジカワ ケンジ

名古屋造形芸術短期大学彫塑科卒業後、家業の「鬼百」に入社。父や叔父の影響を受けながら、鬼瓦制作に励み、腕を磨いた。寺院などの鬼瓦や飾り瓦から箸置までと作品の幅は広い。



## 鬼 加藤 佳敬

師 カトウ ヨシタカ

大学卒業後、窯業機械メーカーで3年間勤務し、窯業の基礎を学ぶ。その後、家業である株式会社丸市に入社。鬼瓦制作、瓦製品の金焼きに従事。京都・知恩院等、有名寺社に作品を納める。



## 守護神を創造する「強い思い」

鬼瓦が家族に幸せと繁栄をもたらす「守護神」となるように。そんな願いを、ひとつひとつ漏れなく注ぎ込むことが信条。得意の「銀色」（燦し瓦）を表現するため、焼成へのこだわりは人一倍。数々の受賞歴に裏付けされた確かな技術と、使い手を想う心。「皆さんの笑顔を思い浮かべながら」と、「守護神」を創る「強い思い」は止まらない。

## 唯一無二の鬼面を求めて

1400年の歴史を持つ鬼瓦の体裁を崩すことなく、どこまで独自の世界観を融合できるか。オリジナリティの追及が一大テーマ。屋根に載せた時の光沢感にもこだわりがあり、緻密な仕上げ作業に一切の妥協はない。他では決して見ることでできない、自分にはしか創れない鬼面を。まだ誰も見ぬそのカタチを彼は今日も追い求めている。

# 鬼面

Kimen

代々受け継がれる  
伝統技法の結集



# 鬼面

Kimen

使い手への  
思いやりがカタチに



先代から伝わる鬼瓦の形状や表情を踏襲して制作を進める中で、改めて祖先や先代への感謝、そして神仏への畏敬の念を感じたという。得意の「いぶし焼成技法」による独特の艶感、そして愛嬌ある表情が印象的な作品。

品番：E-01



鬼面本来の険しさを残しつつ、どこか愛嬌が深い表情は眺めていて飽きることがない。また全体に丸みをつけ、柔らかさを表現することで幸福の願いを込めた。使い手に対する敬意と思いやりが作品の根底に感じられる作品。

品番：D-01



## 鬼 神谷 晋

師 カミヤ シン

大正 8 年に初代神谷仲次郎が鬼瓦手造り工場として創業した「神伸」の三代目。金型でプレス製造する鬼瓦を主軸に手造りの鬼瓦、特殊瓦、太陽光支持瓦、神社仏閣用の本葺瓦を製造する。



## 伝統を守ること、それは攻め続けること

日本建築の顔である和瓦、そして鬼瓦。日本文化と共に歩んできた瓦文化を伝承させる重要性を感じる一方で「同じもの」を創り続けることが伝統を守ることではないとも考える。「伝統にこだわらないデザイン、フォルムの追及こそ」。脈々と受け継がれる伝統を守りつつ、作品を通じて彼が創っているのは「新しい伝統」でもある。

## 鬼 神谷 延三郎

師 カミヤ エンザブロウ

昭和 42 年からおよそ半世紀に渡って鬼瓦の制作に携わる。和風・洋風住宅用の鬼瓦やエクステリア部材など、ニーズに合わせて日々新商品を開発。ユーザー目線の心豊かな作品創りが信条。



## 全ての工程に心を込めて

半世紀に渡って培った経験と技術。三州鬼瓦界の生き字引のようなベテランだが、奢ることはなく、常に使い手の立場で考え、鬼瓦と向き合ってきた。「一から十まで全ての工程に心を込めて」。その志は確実に作品に表れるという。長年に渡って創り続けてきた中で、決してブレることのない信念。それがあからこそ続けられるのかもしれない。

# 三面鬼面

Sannen Kimen

災いも逃げ帰る  
追力の三面鬼面



鬼瓦の中でも珍しい「三面鬼面」をモチーフにしたのは「様々な方向からくる災いから家族を守るため」。額には、花の中でも最高の品格とされる牡丹を。右鬼には太陽の紋章を付け「陽」を、左鬼には月の紋章を付け「陰」を表現した。 **品番：G-01**

# 鬼面

Kimen

「生きた鬼」への  
こだわり



今にも噛みつきそうな牙、突き刺さりそうな角の立体感。本来、鬼が持つ「怖さ」がストレートに伝わってくる。「誰が見ても、鬼の意匠性を感じられる作品に」。それは即ち、鬼が鬼として「生きている」ことを意味している。 **品番：F-01**

## 鬼 萩原 尚

師 ハギワラ ヒサシ

YAG デッサン研究所にて洋画家・鬼頭鍋三郎、福山進に師事後、家業の鬼瓦業に従事。日本の伝統的なデザインを元に金閣寺、清水寺、善光寺を始めとした文化財修復、瓦のモニュメント等を手掛ける。



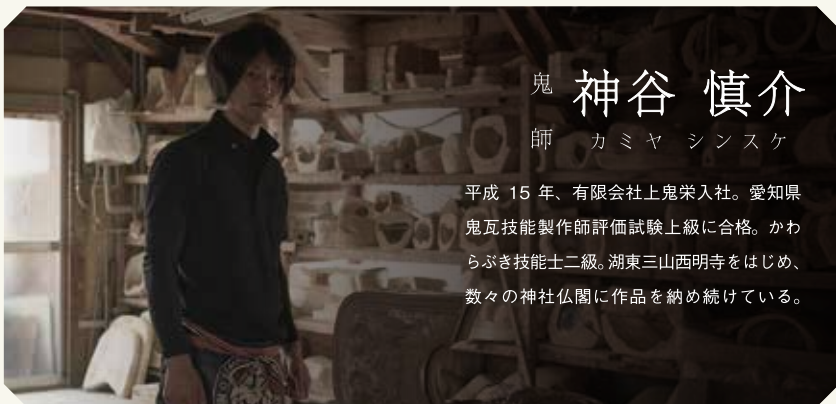
## 鬼瓦の伝統技術を絶やさぬため

一彫りで仕上げる「ヘラの一刀彫り」に自信アリ。生み出された作品は、どこか荒々しさを残した迫りに満ちている。「1400年もの歴史が紡いできた伝統を未来に遺したい」。鬼瓦の伝統的な製造技術を生かした、鬼瓦以外のオリジナル製品の制作、そしてその技術やパフォーマンスを世界に発信していくことが目標。

## 鬼 神谷 慎介

師 カミヤ シンスケ

平成15年、有限会社上鬼栄入社。愛知県鬼瓦技能製作師評価試験上級に合格。かわらびき技能士二級。湖東三山西明寺をはじめ、数々の神社仏閣に作品を納め続けている。



## 鬼瓦界の未来はこの手に

「長く残る作品は、100年以上の歴史を刻むもの。その歴史に携わることが夢」と語る、若手鬼師。国宝や文化財など後世に残るものを手掛けていきたい、と野心をのぞかせる。尊敬する先人達の背中を追いかけ、自分にしかできない表現を模索している。信条は「一期一会」。鬼瓦界の未来を背負う彼の眼に、迷いはない。

# 笑鬼面

Shou Kimen

笑う鬼には  
福来たる



# 宝珠鬼面

Houju Kimen

常識を封印し、  
新たな世界観を



見事な笑いっぷりの鬼。その名も「笑鬼面 (しょうきめん)」。1年間を笑って過ごせるように、という願いから生まれた表情は「鬼は怖いもの」という概念すら覆しかねない。左右の12個の数珠は、1年間(=12か月)を意味する。

品番：I-01



パリの神面すら彷彿させる鬼面は、無国籍的であり親しみあるキャラクターを意図した。伝統的な鬼面の特徴を象徴的に残しつつも、あえて数珠等の装飾を省いた。シンプルさを追求することで、独特の存在感を放つ作品に。

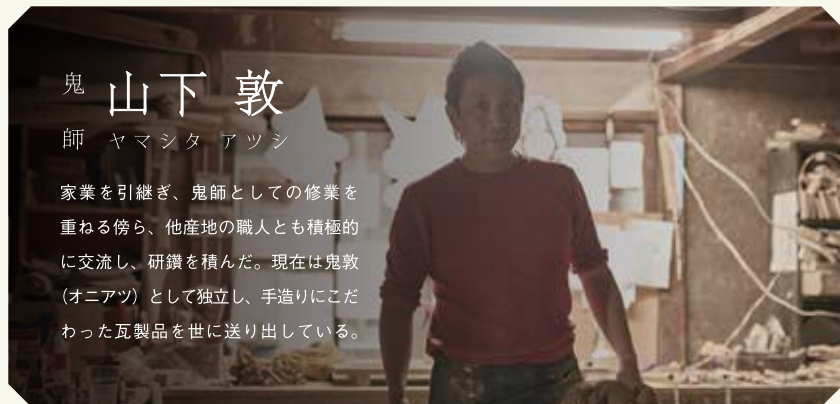
品番：H-01



## 鬼 山下 敦

師 ヤマシタ アツシ

家業を引継ぎ、鬼師としての修業を重ねる傍ら、他産地の職人とも積極的に交流し、研鑽を積んだ。現在は鬼敦(オニアツ)として独立し、手造りにこだわった瓦製品を世に送り出している。



## 鬼 服部 秋彦

師 ハットリ アキヒコ

創業 80年の鬼瓦工房「鬼十」の三代目。民家用から文化財復元まで鬼瓦全般を手掛ける傍ら、日本インダストリアルデザイナーズ協会とのコラボレーションで新分野での商品開発も進行中。



## 人との出逢いが、自分を変えた

全国一流の鬼師達から指導を受け、得た知恵を糧に「自分らしさ」を迫及する。量産ではなく、ひとつひとつの仕事をその都度、丁寧にこなしていくのが信条。きめ細やかな仕上げといった技術的なこだわりは勿論、あしらった模様の意味までを大切に。「毎日が修行」と独立した今尚、精進の日々は続く。

## 確かな技術と革新的なセンス

皇居、京都御所、出雲大社等、日本の象徴とも言える建造物や寺社に作品を提供している実績から、鬼師としての実力は折り紙つき。それを築いたのは日々の鍛練であり、積極的に先人達の作品に触れることで養ったセンス。身の回りのものや旅行中に会ったものからインスピレーションを受けることも多く、柔軟な発想が新たな作品を生み出す原動力。



## ◎ お取り扱いについて

### 設置方法

※箱から取り出す際に鬼瓦を素手で触らないでください。

鬼瓦家守は【壁掛け】、【据置き】の両方の設置が可能です。壁掛けはネジ固定以外に、下地の無い石膏ボード壁でも付属の小鋸で固定できます。



【壁掛け】

プレートを壁に固定し掛ける。

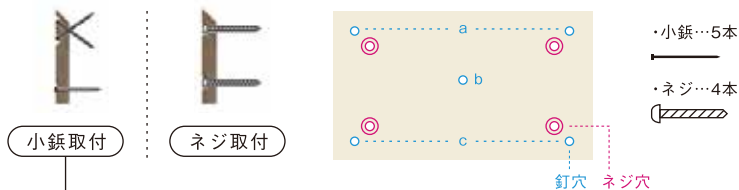


【据置き】

ベース差込口左側にあるクッションにプレートを押当てながら図のように差込む。プレートが緩い場合は両面テープで接着する。

### <壁掛け時の取付について> - 付属品 -

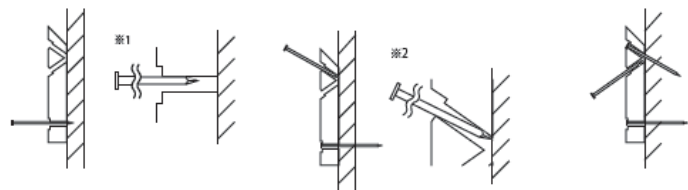
・ベース(プレート付)…1枚 ・転倒抑止クッション…2ヶ



小鋸取付

ネジ取付

下地の無い石膏ボード壁への取り付け方



① 針穴 c に小鋸を刺す。 → ② 針穴 a に小鋸を刺す。 → ③ 針穴 b に小鋸を刺す。

※2本目を刺す際、水平を確認する。

プレートの位置を変更したい場合 ②③の小鋸は針穴と小鋸の間にマイナスの精密ドライバーを挿入して小鋸を引き抜く。①の小鋸はプレートと一緒に手前に引き抜く。

## ◎ サイズ・メンテナンス

### サイズ等

高さはベースを含め、約 140mm 程、重さはベースと鬼瓦のセットで約 800g です。鬼瓦の種類によって多少変動します。



	縦	横	厚	重量
鬼瓦	90mm	110mm	50mm	400g
ベース	140mm	200mm	26mm	400g
箱	230mm	245mm	85mm	200g

### 材質及びメンテナンス

#### 鬼瓦：粘土焼成品

メンテナンス：汚れが目立つ場合は軍手を着用の上、鬼瓦を固定しているビスを外し、水洗いが可能です。メラニンスポンジを使用すると汚れが落ちやすくなります。

#### ベース：木材(ウォールナット)

メンテナンス：乾拭き又は水拭きを行い、木肌が毛羽立つようでしたら市販の家具用オイルなどを塗ってください。

鬼瓦家守の特注品や、従来の本格的な鬼瓦や置物など、お客様のご希望を承っております。記念品、贈答品などにもぜひご利用ください。

※ご要望や不明な点、ご相談などがあればお気軽にご連絡ください。  
※価格は内容により異なりますので、お問い合わせ下さい。

## 鬼瓦家守 (取替え用鬼瓦)

鬼瓦家守はベースと鬼瓦がビスで固定されているので、ベースはそのままに他の鬼面と取替えてご使用いただくことができます。

- ・鬼瓦の種類を変えることで、空間の雰囲気を変えることができます。
- ・多くの鬼師の作品を揃えたい方にもおすすめです。

## 鬼瓦家守 特注品

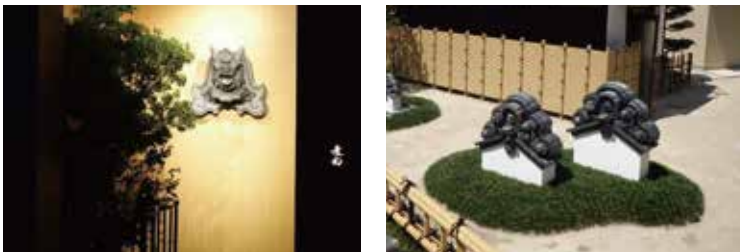
鬼瓦家守の鬼面を手造りのオリジナルデザインで制作いたします。鬼面以外のモチーフでも制作いたしますのでお気軽にご相談ください。

- ・制作する鬼師をお選びいただけます。
- ・ベースとセットでの販売となります。
- ・製作過程の写真をお送りします。SNS等でお楽しみいただけます。
- ・日程調整が可能であれば、窯入れや窯出しに立会い可能です。
- ・ご要望であれば、目入れや加工をご自身で体験できます。

## 鬼瓦 特注品

サイズ、使用用途、数量などお伺いし、ご希望の鬼瓦を制作いたします。

例：店舗などの装飾／庭園への設置／置物／家紋／表札



TEL 0566-53-2631 / FAX 0566-52-2217  
E-mail [info@onigawara-iemori.jp](mailto:info@onigawara-iemori.jp)



## 鬼瓦家守とは…

社寺や日本建築の屋根に「守り神」として設置されてきた鬼瓦。主流の洋風屋根には設置困難な上、「鬼瓦=守り神」という日本の大切な住文化が薄れつつあります。そこで戸建て・マンション・アパート・オフィスなど『全ての住空間に「守り神 鬼瓦」を』のコンセプトのもとインテリア商品として開発されたのが『鬼瓦家守』です。空間デザインを損なわないサイズ感と凹を設けウォールナット材のベースが鬼瓦を多様なシチュエーションに対応します。鬼瓦とベースはビスで固定されているので、鬼瓦の取替えが可能です。設置も壁掛け据置き兼用ですので設置場所に困りません。家人の健やかな成長と発展をいつも見護る鬼瓦家守。家にかかる邪気を祓い、子どもの成長を見護る存在としても子々孫々とありつづけます。